

## 大学憲章の策定にあたって

お茶の水女子大学は、創設以来一貫して女性の自立と社会的活躍、そして社会の知的基盤の充実に寄与してきた。

1875年（明治8年）、「御茶ノ水」（文京区湯島）に東京女子師範学校が開校され、その後、東京師範学校女子部、東京女子高等師範学校を経て、1949年（昭和24年）に新制大学・お茶の水女子大学となり、現在に至っている。この135年の間、本学は国によって設置された最も歴史ある女性の高等教育機関としての使命を遂行し、多くの優れた女性を社会に輩出してきた。

そして、2004年（平成16年）、国立大学の法人化に伴い、本学は、国立大学法人・お茶の水女子大学となり、これを機に、自らの使命と存在意義とを改めて確認し、それを内外に広く示すこととした。法人化に際して本学は次の標語を掲げている。

「お茶の水女子大学は全ての女性にとって真摯な夢の実現の場として存在する。」

この標語の下、本学は、常に時代の変化に敏感でありつつも普遍的な真理を追究し、そのことによって女性も男性も自由かつ対等に活躍できる多様で豊かな人間社会を実現するという歴史的使命を果たしていくことを目指し、ここに大学憲章を定める。

2011年 春

お茶の水女子大学

本憲章は次の三章から成る。

第一章 本学の校歌

第二章 本学の中長期的活動指針

第三章 本学の近未来像

## 「大学憲章」(案)

### 大学憲章 第一章 本学の校歌

みがかずば たまもかがみもなにかせん

学びの道も かくこそありけれ

これは本学の校歌である。100年以上ものあいだ、本学に関わる人々は、この歌を自らの励みとし、また、自らを律するものともしてきた。

人はみな、磨かれざる原石として生まれ出る。そして、自らの中に宝を見いだし、輝きを増すためには、周囲の人々から愛情深く磨かれ、育てられることが必要である。温かく育まれたものは強く、優しい。本学に関わる人々はそのことを体現している。

また、学びの道を志す人には、何処に在ろうとも、自らの信ずるものを、自らの努力によって怠りなく磨き続けることが求められる。

## 大学憲章 第二章 本学の中長期的活動指針

### 【教育文化】

**お茶の水女子大学は、一人ひとりを大切にする豊かな教育文化を維持し続ける。**

本学ではリベラル・アーツ教育を重視する。お茶の水女子大学のリベラル・アーツ教育は、人文科学・自然科学・社会科学の素養やセンスを広く備えた知性を育むことを目指している。

また、問題関心の広げ方、専門の深め方、固有のテーマの発見の仕方についても、自由度の高い学びを実現する。そのために、柔軟な教育のシステムを構築する。

### 【研究文化】

**お茶の水女子大学は、時代の趨勢に流されない基礎的研究を重視する。**

大学は、文化を創造し、自然の原理を探求する場である。本学はその実践に際し、社会的存在としての大学のあり方を自覚しつつ、社会が本学に求める独自の研究の開拓・実践に努める。それを踏まえて、日本の文化と科学の発展に資する研究や、次代を見据えた先端的創造的研究に、果敢に挑戦し続ける。

### 【国際交流】

**お茶の水女子大学は、海外との研究・教育上の人的交流・文化的交流を意欲的に進め、広く活動を展開し、国際社会において固有の存在感を発揮する。**

本学は、開学以来、アジアの女子教育の拠点としての役割を果たしてきた。そして、研究者や学生の交流、大学間協定など様々な形で国際交流を展開し、国境を越えた研究と教育の実績を積み重ねてきている。この蓄積に基づいて、自らもまた新しい文化を創造し、これを世界に向けて発信する。

### 【社会との交流】

**お茶の水女子大学は、社会との間で望ましい知の循環を実現することによって、社会的使命を果たしていく。**

本学は、高い倫理観と専門能力を備えた女性人材を育成し、国内外を問わず、それらの人材が活躍できる場を開拓していく。

また、研究の実践を社会に還元することに喜びと誇りを持ち、広く社会に貢献する。その際に、社会の変化に敏感でありつつも、いつの時代でも変わらないものがあることを社会に提示し実践する。

#### 【附属学校園】

**お茶の水女子大学および附属学校園は、“みがかずば”を掲げて、互いに学びあう。**

幼くともまた年を重ねていても、各々に応じた責務を果たしつつ、互いに認め合い、ともに成長することを目指す。それは、互いに思いやって支えあうことを通して、それぞれの時期や立場で、人としての生を充実させることを意味する。

#### 【本学およびすべての附属学校園の卒業生、教職員 OB/OG とのつながり】

**本学の学校園に遊び、学び、働いた日々を共有した者たちは、互いに強い絆で結ばれている。**

この門を出て、日本中に世界中に活躍する人々は夥しい数にのぼる。またそれらの人々は、学びの場、家庭や地域社会、職業の場などで、それぞれ真摯に努力を重ね、研鑽を積んできた。

そうした一つ一つの歴史の蓄積が、本学に対する類まれな信頼を築き、多くの人々が、社会を先導する役割も多く担うこととなった。そのことは、本学に関わる人々にとって大きな誇りでもあり、また、未来を担う人々の励みにもなる。

過ごした時の長短を問わず、本学に関わったすべての人々は、未来においても“みがかずば”に受け継がれてきた心を守り続けるであろう。

## 大学憲章 第三章 本学の近未来像

本学が描く理想の大学像は、学問という最高の智と最高の清閑<sup>あそび</sup>を介して、無数の異なる生<sup>パースペクティブ</sup>と知が自由に出会う場となることである。そこでは、無数の異なる価値観が交差し、互いに批判し合うことで活性化する智的創造の機会が提供される。そのことによって、一人ひとりが自由闊達に学問と芸術を愉しみ、制度や役割にとらわれることなく判断能力を鍛え、真の意味での豊かな文化を継承していくことが期待できる。

この理想を実現し、日本のみならず広く国際社会において、歡ばしい生と豊かな文化があまねくもたらされるように努めること、それが国立の女子大学としての本学がこれまでの実績を礎に果たすべき歴史的使命である。